

## ダービー戦の効用

今シーズンはプロサッカーの試合を出来るだけ多くのお客様に見て楽しんで頂けるように様々な工夫を凝らしました。

その一つが対戦相手チームと試合を楽しむ以外にグッズや特産品や歴史や自然遺産などの協働【コラボレーション】や競争【コンペティション】をサブテーマにして応援の渦を大きくして楽しもうという趣向です。

名古屋グランパス戦は「名岐ダービー～木曾川の合戦～」とネーミングしました。

折しも、岐阜県では関ヶ原古戦場、岐阜市では信長が岐阜と命名して450年と戦国の武将達にスポットライトが当たっていましたので、県境の木曾川を挟んで対峙する両軍団による合戦をイメージしました。

これは、両チームのファン、サポーターや報道関係にも受け入れられ、試合の熱戦に加えて、記念グッズや様々な対抗イベントで大いに盛り上がり、観客数は予想を超えた増加となりました。

3月4日豊田スタジアムでは21,878人で今シーズンのお名古屋グランパスの5番目の観客数であり、10月1日長良川競技場では

17,027人でFC岐阜の10年間の最高記録の入場者数となりました。

白山ダービーと銘打ったツエーゲン金沢との対戦は、岐阜では昨年4,081人でしたが、今年4月29日には7,066人で2,985人増加しました。

金沢では昨年3,008人でしたが、今年11月5日は岐阜からも約700人もものサポーターも加わり、5,567人で2,559人増加しました。

このように、単なる試合だけでなく、様々なお国自慢の食べ物や名所旧跡や歴史や観光地の対決と銘打ったお楽しみイベントが、両チームファンの興味や楽しみを掻き立て、更には周囲にいる両県の出身者や友人がいたりして、観客数の増加に繋がっているのです。

来シーズンは、各チームや関係する市町村とイベントなどの打ち合わせと準備を万全にして、観客の皆様にもっと楽しんで頂こうと思っております。是非2018年シーズンはチーム成績の大幅向上と共に、さまざまな楽しいイベントに大いにご期待ください。

写真：©Kaz Photography/FC Gifu



【白山ダービー】ダービーオリジナルグッズも作成



【名岐ダービー】信長公おもてなし武将隊によるサポーターお出迎えハイタッチの様子